

効果報告レポート

【事業者名】

NPO法人 教室ICT実践会

【ツール名】

おさらい先生

プログラミング先生

【ツールの機能分類】

デジタル教材（国語、算数/数学）

プログラミング学習ツール

2023年2月



おさらい先生®

プログラミング
先生®

■ EdTech ツールの概要①



読解と計算の基礎学力を保障する、オンラインたしかめ教材

おさらい先生

(小1～中3 対象)

ことば

単語の読み方からスタートして、単文を正しく理解できるようになります。読解の基礎となる力をつけます。



すうじ

数字のドッツや数字ならべを通じて、数感覚を養います。計算の大事な基礎となります。



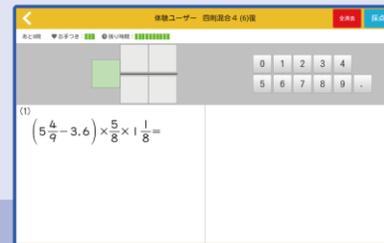
読解

物語・詩・論説文を正しく読み取る習慣をつけることで、しっかりとした読解力が身につきます。



計算

足し算から二次方程式までがスモールステップで構成されたドリルです。例題を解きながら、自力学習で計算力がつきます。



課金形態	契約内容	ライセンス料金
アカウント課金	500アカウント未満	3,000円/年、250円/月 (税抜)

プログラミング
先生®

プログラミング先生

小1～中3 対象

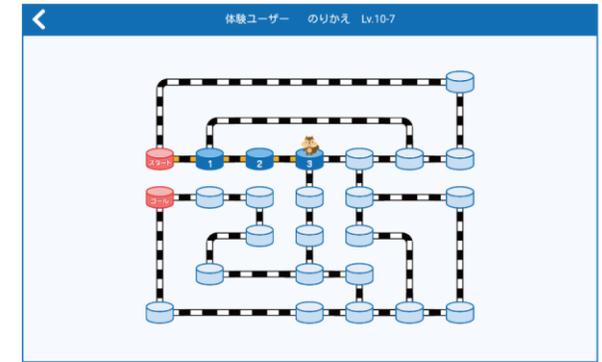
「問題を分析して解決する力」がパズル感覚で身につきます。

- ✓ プログラミング言語ではなく、思考を養成する教材です
- ✓ 子どもたちが自ら問題を解きながら学んでいくため、先生が準備や解説に手間をとられません
- ✓ タイピング不要で低学年から使え、小1～中3までプログラミング教育の入り口として最適です

課金形態	契約内容	ライセンス料金
アカウント課金	500アカウント未満	1,500円/年、125円/月 (税抜)

教科 1
「のりかえ」

最短経路を
見つけよう！



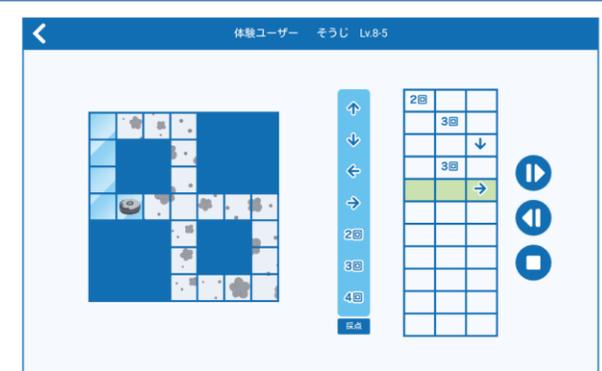
教科 2
「りょうり」

手際よく
料理しよう！



教科 3
「そうじ」

そうじロボットを
コントロールしよう！



■ 学校等教育機関の抱える課題

児童・生徒が抱える課題	●特別な支援を要する子どもたちに合ったICT教材がない 個人個人のレベルに応じて学習できる教材がない
教職員が抱える課題	●先生方のマンパワー不足 アナログ教材の準備・片付け負荷が大きい

特別支援学校・学級の生徒増加で教員不足 文科省は「若手の配置や人事交流」を目指す…現場から「増員が大前提」の声

非正規雇用の教員に頼っている現状

背景には、特別支援教育を受ける児童生徒の増加に教員の配置が追いつかない現実がある。文科省によると、昨年5月時点で特別支援学校の教員の17%、支援学級の担任教員だと24%が臨時的任用の非正規雇用だ。支援学級担任が専門の教員免許を持つ割合は31%にとどまる。

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会（全特協）によると、2021年度に校長は小中学校とも特別支援教育の未経験者が70%を超え、障害がある子どもの教育に知識が乏しいという現実もある。

検討会議メンバーで、全特協会長を務める喜多好一・江東区立豊洲北小学校統括校長は「支援学級や（児童生徒が小中学校内で通常学級に属しながら、障害に応じた指導を受ける）通級指導教室は教員が不足し、厳しい状況にある。複数年経験は協会の強い要望だったので、盛り込まれたのはありがたい」と話す。

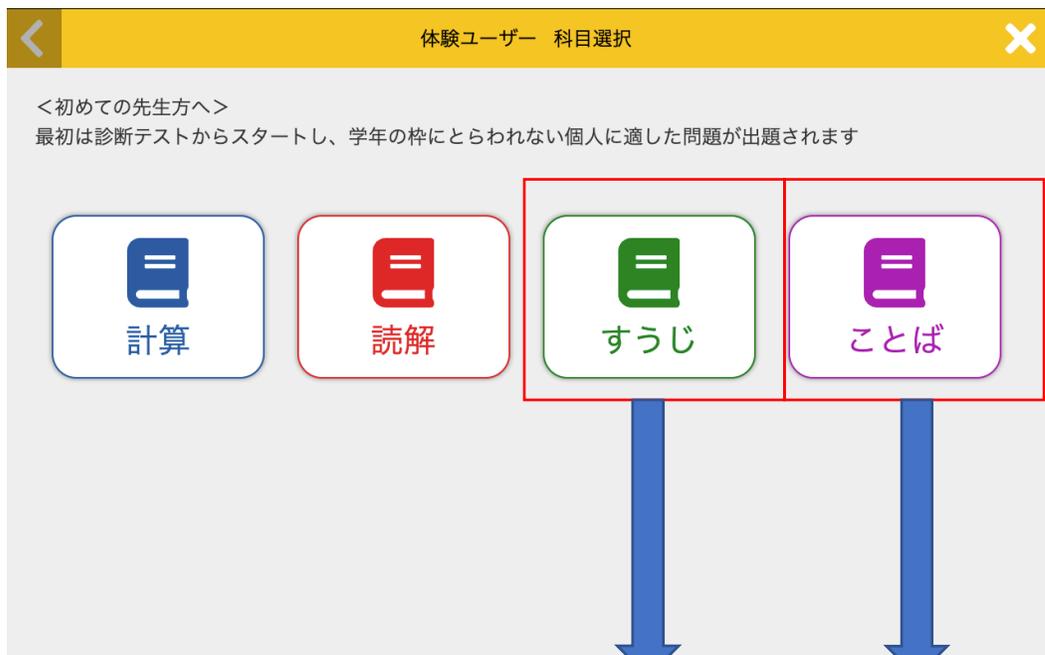
先行する都教委「増員ないと厳しい」

東京都教育委員会は、2013年度から小中高校と特別支援学校間で、教員を3年間派遣する交流人事を実施。さらに2023年度からは特別支援学校と地域の小中学校の特別支援学級間で1年間の交流人事を予定し、報告書の内容を先取りしている。

経験が浅い教員を一気に受け入れると、現場の負担を重くする可能性がある。都教委の担当者は「国による教員増員などの配慮がないと、採用10年目までに全教員が特別支援教育を複数年経験するのは厳しい。引き続き、現在実施しているような特別支援教育に携わる教員の資質向上に取り組んでいく」とする。

（2022年5月7日付 東京新聞朝刊より）

■ EdTech導入補助金2022における活用事例



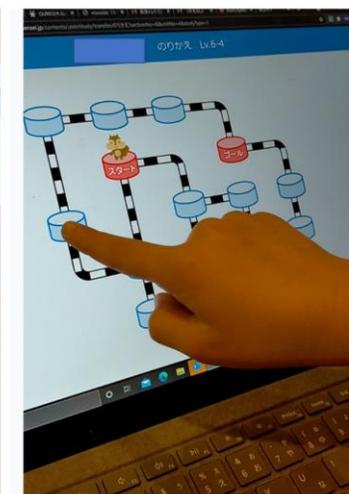
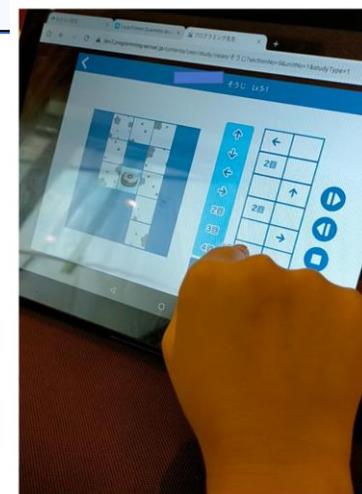
算数・数学の授業 国語の授業



算数・数学の授業

・本ツールは個別最適化教材のため、普通の学校ではカリキュラム外の時間に使われることが多いが、今回の事業の9割を占める特別支援学校では授業時間内に個別学習で利用されていた。

※写真の使用許可が下りていないため、引き続き呼びかける。



■ 補助事業において実施したサポート内容

○ 問合せ、ツール不具合対応

本補助事業用として新たに設置したコールセンター
平日10:00～18:00 1名体制

○ 月次運用レポート報告

利用状況をサーバから抽出してレポートにまとめ、
メールで報告。

実施時間は1～2時間、対応者数はサーバ管理者と各
校担当者の2名体制、
レポート内容は各アカウントの学習履歴

○ オンライン運用支援

毎月末、13～18時の時間帯で学校ICT担当に電話も
しくはメールで困ったことはないかヒアリングし、
画面説明が必要な場合はオンライン会議



■ EdTech導入補助金2022における導入実績

学校等設置者名	学校等教育機関名	おさらい先生	プログラミング先生
栃木県教育委員会	栃木県立足利特別支援学校（小学部）	3	0
	栃木県立足利特別支援学校（中学部）	4	0
	栃木県立今市特別支援学校（小学部）	26	26
	栃木県立今市特別支援学校（中学部）	24	24
	栃木県立今市特別支援学校（高等部）	35	35
	栃木県立のざわ特別支援学校（小学部）	56	56
	栃木県立のざわ特別支援学校（中学部）	30	30
	栃木県立のざわ特別支援学校（高等部）	39	39
出水市教育委員会	下水流小学校	211	0
福岡県教育委員会	福岡県立久留米聴覚特別支援学校	20	0
	計	448	210

■ EdTechツールによる活用効果①

【課題】 特別な支援を要する子どもたちに合ったICT教材がない

- ・ 本ツール内の教科「ことば」は未就学以前の単元が収録された教材である高校では、9～12月末までの期間に**1,732ユニット**の総学習履歴が記録された。
※ユニットは本ツールの学習単位で、各単元は十個程度のユニットで構成され、各ユニットの中には10問の問題が入っている。

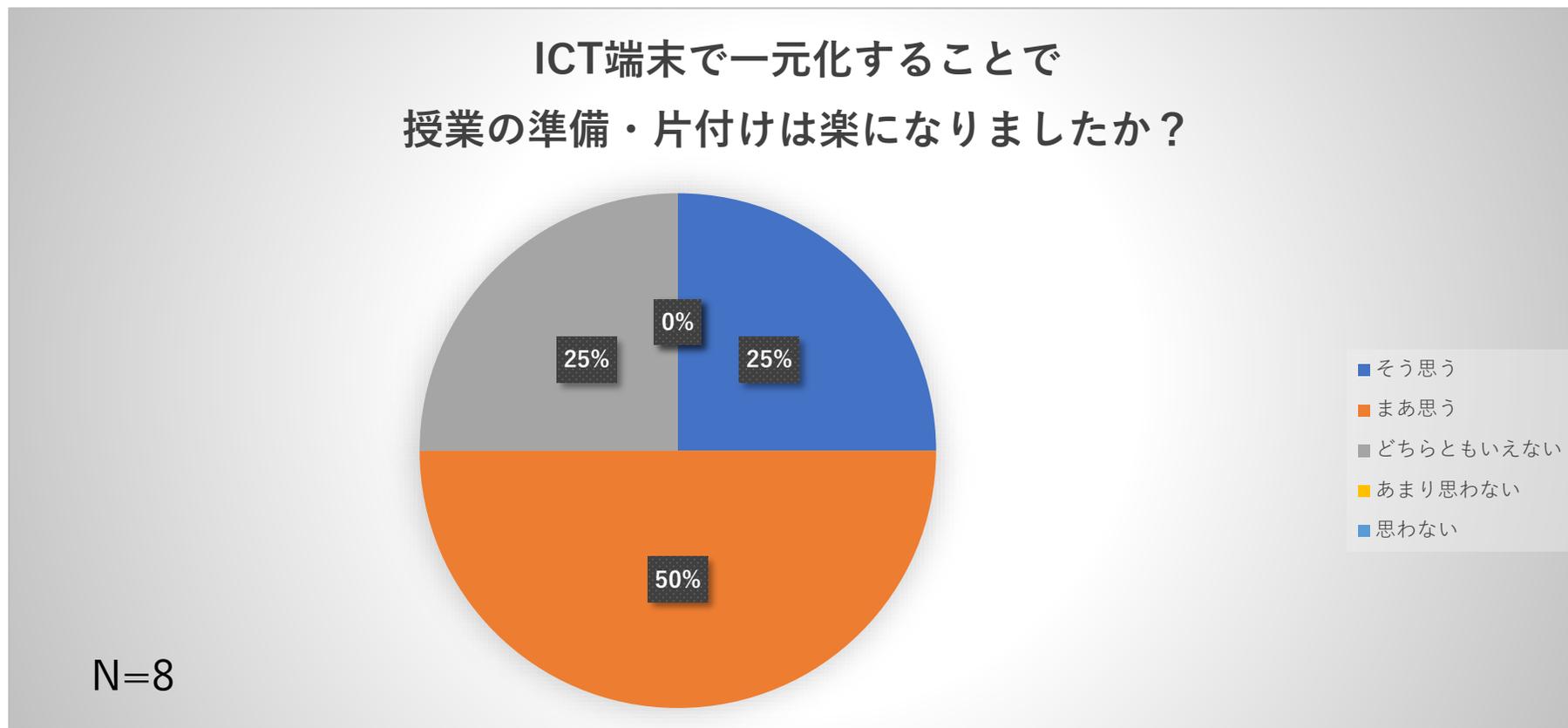


【課題】先生方のマンパワー不足



・特別な支援を要する子どもたちにはアナログ教具を多用するので、ブラウザで一元管理できることに対しては肯定的。

※アンケートの回収率が悪く、春休み期間に再度回答呼びかけ予定



■ EdTechツールを活用した児童・生徒・教員のコメント感想等

児童・生徒のコメント	<ul style="list-style-type: none">・制限時間が厳しすぎる・何度もチャレンジして、つぎのユニットに行けると嬉しい・全問正解したときメッセージ画面で、問題が隠れてしまうので、正解が確認できるようにしてほしい・楽しかった・またやりたい
教員のコメント	<ul style="list-style-type: none">・イラストがやさしくてよかった・さらに簡単な単元もほしい（あいうえおとか）・音が出るともっとよいのではないか・かんたんな単元を増やしてほしい・何回間違えても飽きずにやっていた・病状が良くない生徒が利用できず残念

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

導入における課題と改善策	・導入においては必要であれば出張研修やオンライン研修を準備していたが、特に必要もなくICT担当の先生方が自分でセットアップできた
運用における課題と改善策	・ICT担当の先生が使える環境を準備したが、各担任の先生が使ってくれるかはまた別で、なかなか利用が進まなかった。 →単年ではなく来年度も継続利用とし、時間をかけて利用を呼びかけていくこととなった

損益計算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日

NPO法人教室ICT実践会 (単位：円)

科 目	金 額	
【売上高】		
売 上 高	11,299,403	
売 上 高 合 計		11,299,403
売 上 総 利 益 金 額		11,299,403
【販売費及び一般管理費】		
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 合 計		17,576,904
営 業 損 失 金 額		6,277,501
【営業外収益】		
受 取 利 息	77	
受 取 配 当 金	600	
雑 収 入	5,105,808	
営 業 外 収 益 合 計		5,106,485
【営業外費用】		
支 払 利 息	80,550	
雑 損 失	1,312,429	
営 業 外 費 用 合 計		1,392,979
経 常 損 失 金 額		2,563,995
【特別利益】		
国 庫 補 助 金 受 贈 益	9,333,333	
特 別 利 益 合 計		9,333,333
【特別損失】		
固 定 資 産 圧 縮 損	9,333,333	
特 別 損 失 合 計		9,333,333
税 引 前 当 期 純 損 失 金 額		2,563,995
法 人 税 等		70,132
当 期 純 損 失 金 額		2,634,127

問い合わせ先

ウェブサイト

<https://www.kictj.jp/>

メールアドレス

info@kictj.jp

代表番号

03-3513-6844

● 特別支援学校からの応募が9割と想定以上に多かった

販社さんがあまりアプローチしてくれないターゲットに、本補助金のおかげでリーチすることができた。

このことをきっかけに、特別な支援を要する子どもたちにも使いやすくインターフェイスを改良していこうという気運が社内でも高まった。